

## 第 17 回日本母性看護学会学術集会

### 交流集会 戦略的プロジェクト「妊娠糖尿病女性への妊娠糖尿病 認定助産師による産後継続支援に関する多施設共同研究」

○成田伸<sup>1)</sup>、松原まなみ<sup>2)</sup>、大平光子<sup>3)</sup>、工藤里香<sup>4)</sup>、山田加奈子<sup>5)</sup>、  
笹野京子<sup>6)</sup>、松井弘美<sup>6)</sup>、川口弥恵子<sup>2)</sup>、小嶋由美<sup>7)</sup>、立木歌織<sup>8)</sup>

1)自治医科大学、2)聖マリア学院大学、3)広島大学、4)京都橘大学、  
5)大阪府立大学、6)富山大学、7)ことり助産院、8)利根中央病院

#### I 緒言

成田は、日本母性看護学会の戦略的プロジェクト担当理事として、看護系学会等社会保険連合（以下、看保連と略）にも関与してきた。看保連は、看護系学会等が集結し、看護の立場から社会保険制度の在り方を提言し、また診療報酬体系及び介護報酬体系等の評価・充実・適正化の促進を目的とする組織である。看保連では2年に一度の診療報酬改定に向けて看護技術提案を行うが、母性看護学会としてもそれに結びつく研究活動を立ち上げるべく検討を重ねてきた。今回の交流集会は、研究代表者として採択された挑戦的萌芽研究「妊娠糖尿病女性への妊娠糖尿病認定助産師による産後継続支援に関する多施設共同研究」（課題番号 26670990）に焦点をあて、母性看護・助産学領域の研究者・実践者に求められる新たな研究の方向性について、一緒に検討して行きたいと思っている。

#### II 研究の紹介

本研究は、妊娠糖尿病（以下、GDM）既往女性への、妊娠糖尿病認定助産師（以下、GDM助産師）が主導する産後継続支援により、産後のフォローアップ率を改善し、GDM 既往女性の将来の糖尿病（以下、DM）発症を予防するために多施設共同研究を行うものである。GDM 助産師とは、GDM を含め糖尿病発症予防についての知識強化の育成プログラムを修了した助産師で、その教育・相談・調整役として母性看護専門看護師（母性 CNS と略）を採用する。研究に参加する各医療機関では、GDM 助産師を中心に各医療施設でチームを結成し、GDM 既往女性に対して、母乳育児外来等を活用し産後に継続的に支援する体制の構築を目指す。これらの体制整備の結果として、GDM 既往女性のフォローアップ率の改善をめざし、この体制の有用性・汎用性を検証するものである。

多施設共同研究とするために、北海道・東北関東地区、東海・北陸地区、関西地区、中四国地区、九州地区の5地区の研究者と、それぞれの地区の母性 CNS が協働し、それぞれの地区を中心に、研究協力の意向のある医療機関と助産師を募集し、共同研究チームの構築を目指す予定である。